平成２７年度　市政懇談会（口和会場）

会　　場	口和自治振興センター
日　　時	平成 27 年 8 月 5 日（水）19：00～
出 席 者 数	参加者 41 人、市 17 人
共通テーマ	メインテーマ：「第 2 期庄原いちばん基本計画について」 サブテーマ：～第 2 期庄原いちばん基本計画の概要と高齢者向けのアンケート結果について～
地域テーマ	「中国やまなみ街道を利用した地域の活性化について」

懇　談　内　容

■共通テーマ

メインテーマ：「第 2 期庄原いちばん基本計画について」

サブテーマ：～第 2 期庄原いちばん基本計画の概要と高齢者向けのアンケート結果について～

（参加者）

コンパクトシティの近い将来とは、どういう意味なのか。アンケートの結果を見てもこのことに市民の関心があまり無いと思う。近い将来とはどこを重点にしているのか。アンケートの答えと、回答がマッチしていない。

（市）

現在、検証の段階であるが、アンケート結果を見ると地域により特徴ある結果が出ておりニーズの違いがあることがうかがえる。したがって、直ちに全域で実施するということではなく、当面、いくつかの地域でモデル的に実施してみてはと考えている。

（参加者）

尾道松江自動車道の用地買収時、口和の大月地区を中心に立ち退きをされた人が、次の居住地を求められたのは、ほとんどが三次市であった。口和の場合、便利の良い三次市へ行き、庄原市へ市民の関心が無いのではないか。便利が良い所に人が集まる。魅力ある地域づくりで庄原市に魅力がないと、コンパクトシティは成り立たないのではないか。

（市）

合併後 10 年経過し人口がどんどん減っている。高齢化も進みこのままで行くと、庄原から福山、広島、東京へ流動してしまう。人口減少をどう止めるかについて言えば、生まれて育ってきた地域で、住み続けたいという高齢者の希望もある。今回、高齢者のみの世帯へアンケートを実施したが、これからの地域づくりをどうやるかという足がかりをはじめたというところである。「まちづくりをしていないから」「魅力を創ってないから」となると、合併前にどうだったのかという話もしていかなければいけない。それよりは、人口減

少に歯止めをかけ、ここで住み続けたい皆さん方の声にどう応えていくのかが重要と考えている。

（参加者）
高齢者のアンケートに公共交通が不便とあるが、公共交通がもっと効率よく地域の住民が利用できるような交通体系を検討してほしい。誰も乗らない路線をバスが走り続けている。

（市）
利用する人がいるなら公共で行う必要は無い。利用者数が少ないがニーズのある箇所をカバーするため、公共交通を行っている。行政がなぜ行うのか判断のうえで施策を行っており、今後も皆さんの声に応えてまちづくりを進めていきたい。

（参加者）
庄原市へ人が集まる交通体系を作っていかなくてはならないのではないか。口和町と高野町は、三次市へ行くように交通体系がつくられている。

（市）
高齢者へのアンケートは、10 年 20 年後にどんなまちにしていくか、それを検討するため実施した。例えば、口和支所付近に集いの場の施設ができれば、買い物や金融機関などの環境もすでにあるので、公共交通の体系も検討すれば、高齢者が三次市や広島市で暮らさなくても慣れ親しんだ場所で暮らしつづけることができると考えコンパクトシティについて話をさせていただいている。

（参加者）
アンケートの主な調査結果で地震、台風など自然災害の不安がいちばん多い。日常に関することをコンパクトシティで対処する考え方なのか。それとも地震などは別なことで対処するのか。

（市）
現在、アンケート結果を検証している段階であり、地震、自然災害への不安も含め、高齢者が抱える不安への対応を今後検討していきたい。

（参加者）
自治会の役員をしているが、自治会員から集落の形成がすでにできていないのでは、という意見が出た。集落が維持できないという小集落があり、農業で生計をたて農地・地域を保全してきた方が高齢化しており、今後は、農地荒廃が懸念される。また、福祉については、高齢者の見守りを自治会で担って欲しいとの話があったが、自治会を構成している

集落の維持ができなくては自治会の体制も維持できないと感じている。他の地域ではどうなのか。

（市）
人口が減り高齢化率が上がる中で、庄原市では集落維持が非常に厳しくなった地域もある。時が経てば経つほど、厳しくなる現象が顕著になるのではないかと思う。高齢者のアンケートでは、住み慣れた今の地域へ住み続けたい。一人になっても住み続けたいとの意見がうかがえる。集落と集落を集めて小さな拠点、高齢者が将来一緒に生活できる拠点を作っていくことを、皆さんに理解をしてもらい意識を変えてもらわなくては、これからの庄原市内の集落・地域が維持できなくなる。

（参加者）
「あと 10 年もすれば集落が大変なことになる」とよく皆と話をする。今までがんばってきた高齢者が、地域をつくり、農地を守ってきたから今がある。世代が変わると、地域がまるで変わるのではないかと心配をしている。

（市）
人口が減っても戸数が減っても隣接の集落と一緒に協力する。さらに隣の集落と協力する。面積が広く大きな集落になるが、人口は減少しており、このまま 5 年・10 年このままでは、なおさら荒廃する集落が出てくる。その意味でもちいさな拠点をつくり、安心して生活してもらう、冬期だけでもそこに住みたいというニーズもすでにあるので、そういった方々の安心安全のためにも高齢者向けコンパクトシティの検討が必要であると考えている。
また、移住しても三次市ではなく庄原市へ、口和町の中にそういった環境が出来れば、そこで生活をしてもらえるのではないか。そういう考え方でコンパクトシティを皆さんにお示ししている。これから議論を進めていきたい。

（参加者）
庄原いちばん基本計画の中で、地域産業のいちばんで比婆牛ブランドの復活を熱心に取り組んでおられる。増頭支援については、比婆牛・あづま蔓である系統の中で、遺伝子を残すものを増頭していくわけだが、増頭を進めるには、和牛飼育農家に 1 頭増頭を願うとか、ホルスタイン牛を飼育される方に、和牛からその遺伝子を採卵して、受精卵の移植を推進してはどうかと思う。
にぎわいと活力のいちばんでは、庄原逸品づくりを進められている。高野の道の駅では多くの庄原産品が販売され非常に素晴らしいことだ。
そこで、NHK の大河ドラマを庄原市に誘致していただけたら、口和の大月には黒岩城があり、また釜峰山それぞれ名勝があるので、物語が出来るのではないかと思う。地元の歴史に詳しい方がいるので、そういった物語を毛利元就などから引用し、ぜひ誘致しもらいた

い。

（市）

比婆牛の取り組み状況について、現在市内での繁殖和牛の状況は約 1,400 頭。比婆牛の系統の一定の条件を満たす雌牛は 1,400 頭の内、約 360 頭という状況である。比婆牛の取り組みを進めるためには子牛の頭数増加が必要である。これに関しては、広島県の種雄の種付けをしてもらう。あるいは人工授精をした受精卵の移植を含めてすすめているが、昨年の実績は 306 頭という状況である。

和牛飼育農家の状況は、1 頭飼いから 3 頭飼いの農家が多い。この農家が更に増頭していくことは、非常に困難な状況である。飼育している方は高齢者が多い。そういう方は本当に牛が好きで飼育している。比婆牛にかかわらず和牛振興の取り組みを行っているが、新たな取り組みとしては、増頭される方には、これまで市の支援しかなかったが、県に要望を重ね、今年度から、畜舎建設、牛の導入を支援する県の補助事業が創設された。この補助事業を活用し、飼育頭数が 50 頭の方が、更に 30 頭増やす計画である。こういった事業を 2 戸の農家で今年度は取り組む予定である。

（市）

すぐにでも NHK へ行きお願いしたい思いはあるが、庄原市は高野・口和・庄原・東城にインターチェンジがある市となった。インターチェンジ周辺には人が訪れるがこれをさらに誘導していきたい。

高野インターから東城インターまでのルートには、吾妻山そして比婆山、道後山そして帝釈峡がある。さらにこの地域には、花田植、神社の祭りなどを大切に守られてきた文化がある。そしてスキー場、観光リンゴ園がある。この素晴らしい資源に光をあて磨き光らせ広く PR していきたい。

（参加者）

いちばん基本計画の達成度について、第 1 期での達成度はどうだったのか。また、2 期の計画の達成度の数値目標は掲げられないのか。

それから、高齢者向けアンケートについてだが、高齢者が本当に困っていることが聞けたのだろうか、将来の生活にかかる資金がいちばん心配ではないかと思う。コンパクトシティの図も示されたが、利用料金によって利用されるあるいはされないがあるのではないか。また、民間の施設の活用も検討されるべきではないか。

（市）

庄原いちばんの根本は、庄原を愛することである。他の自治体と競争することではなく、やっぱり庄原がいちばんと思ってもらえる事業を行っていくのが庄原いちばんづくりである。達成度としては、比婆牛の復活やこだわり米の取り組みなどは、満足いく成果が上がっている。産科の再開については、今年度、実現できなかったが、このことも今後、いち

ばんづくりの中で実現に向け取り組みを行っていく。

（市）
　現在、アンケート結果を分析中であり、利用者のニーズに合う検討をすすめたい。また、施設整備については、新しく建設する。さらに市の遊休施設を活用する。そして民間のアパートなどの施設を活用するという 3 つの考え方があろうかと思う。今後はニーズや地域実情を考慮しながら検討を進めていきたい。

■地域テーマ
「中国やまなみ街道を利用した地域の活性化について」
【自治振興区からモーモー物産館・鮎の里・ほたる見公園・口和郷土資料館の状況について説明】

（市）
　モーモー物産館の課題について、モーモー物産館は、名前を付けている口和地域の思いが強く表れている施設である。モーモー祭があり、過去に全国和牛能力共進会で優秀な牛を多く輩出した地域で、牛に対する思いは強く感じられる。モーモー物産館は、課題として売上が伴っていない、施設全体が狭いなどがある。この施設にどういうテーマをもって、この施設をつくっていくのか、今までつくりあげてきたものも踏まえて、どうつくり上げて行くのかが重要なポイントである。
　モーモー物産館の名前にあるとおり、牛にこだわったこの施設づくりを、改めて行うべきではないか。特に比婆牛の取り組みを昨年から始めているが、現在は月に約 2 頭から 3 頭。来年の 4 月以降には月 10 頭は市内で販売可能になるという状況になる。この施設については肉の販売、肉のメニュー、さらに乳製品の販売など、この施設は牛にこだわった施設にしていくべきと考えている。支所・本庁担当課室、指定管理者そして地域の皆さん方で委員会をつくり皆で知恵を出し合って施設づくりをしていきたい。

（市）
　鮎の里・ほたる見公園の施設等の課題について、中国やまなみ街道を利用した地域の活性化については、高野町の道の駅開設では、高野地域の住民は委員会を立ち上げさまざまな意見を交わし、地域の農産物等を使った特産品づくりをした。
　観光、特産品、地域を元気にしていくことは、住民、行政、指定管理者が一体となって、施設を生かしどうやって地域づくりをしていくか議論をして行くことが必要である。それぞれの施設の特色づくりが重要となる。高速道路でつながると、遠くの施設も競争相手となる。特色がないとその施設に寄らない。高野町では道の駅に置く物は、庄原産にこだわった。モーモー物産館は牛という口和地域の特性を売っていくため住民・施設管理者・行政が一体となって進めていく必要がある。その中でモーモー物産館をどう使うのか、鮎の里をどうするのか、ほたる見公園をどう生かすか、施設改修の必要性は認識しているがソ

フト面での施設活用策もしっかりと議論をして行く必用がある。

（市）
　口和郷土資料館について、口和郷土資料館の大きな特徴は、映像や多くの機器の展示コーナーで、特に機器を修復し年代別、種類別で古いものも動くことが特徴で、国内でも珍しい施設となっており、地域内外や県外からも来客のある施設となっている。施設が老朽化し修繕などの整備が必要であると考えている。

（参加者）
　管理者と地域住民が知恵を出せという表現があったが、市が管理を委託するので、市が指導や助言するべきで、自治振興区が立ち入ることは非常に難しい。また、地域おこし協力隊員が配属されているが、活性化へ向けた体制が整っていないのではないか。隊員は地域を知らないので、市職員と相談し、共に動く体制が取れていない。口和地域だけではなく市職員が協力してその人の能力を発揮できるような体制づくりをお願いしたい。

（参加者）
　質問する方もモーモー物産館を具体的にどうしたら良くなるのか、あるいは鮎の里をどうしたら良いのか、という明確な意見があって、市に投げかけるわけでもなく、市もそれに対し大まかな説明しかしない。これでは時間の無駄である。懇談会といいながら懇談時間より説明時間の方が長い。50 分も説明するのなら、事前に文書やインターネットで情報取得できるようにするとか、あらかじめ準備をすべきである。

（市）
　ご意見を受け来年度以降の市政懇談会の実施について検討させていただく。

（参加者）
　モーモー物産館はトイレが少ないので、トイレが多い場所へバスは行ってしまう。市がトイレを増設するとこの場で答えれば口和地域の者は喜ぶ。そういう答えがほしい。

■市長まとめ
　トイレを作るという回答は、今日は出来ない。モーモー物産館のことをしっかり地域の皆さんで知恵を出して考えて行きましょうと言っているのは、口和地域の特徴が、モーモー祭や牛だからである。そういう特徴を生かしどんな施設にするのか、一緒に知恵を出していきたいからである。トイレを増設するだけで客が増えるなら約束して帰りたい。市も懸命に取り組むのでご理解をいただきたい。
　庄原市は人口減少という大きな課題を抱えており、庄原市の将来に向け取り組みを進めていきたいが、それには皆様の理解やご協力が必要である。皆さんと一緒この口和地域また庄原市の発展のために努力していきたい。皆さんのご協力

をお願いしたい。